

職員オススメ本 10月



「エコな毎日」 中嶋 亮太、古賀 陽子／著 翔泳社

普段の生活で身近にあるプラスチックですが、使い捨てられたプラスチックは自然分解されず地上に残り続けることから地球環境に悪影響を与えと言われ、SDGs（持続可能な開発目標）でも取り上げられています。

本書では、プラスチックフリー（脱プラ）をテーマに、日々楽しくプラスチックを減らしていけるような工夫やアイテムが、生活シーンごとに紹介されています。

「エコバッグをケータイする」、「ポリ袋をやめて新聞紙ごみ袋を使う」等無理なく実践できる方法が紹介されており、環境にやさしく暮らせるヒントが詰まった一冊です。



「奇跡のミシン 天国の声、届けます」 清水 有生／著 双葉社

アパレルメーカーをリストラされたみどりの元に一通の手紙が届く。そこには、3歳の時から会っていない父が亡くなったという知らせが書かれていた。父は紳士服のテーラーをしており、最近では遺品をリメイクする仕事をしていたらしい。亡くなる前に受けていた仕事を代わりに引き受けたみどりがミシンをかけると、どこからかピアノの音が鳴り、ミシンの手を止めるとピアノの音も消える。そうしているうちに男性の声が聞こえ…。

亡くなった人と会話ができるミシンが起こす奇跡の物語です。



「かすてぼうろ」 武川 佑／著 光文社

関ヶ原前夜。山深い田舎で育った十三歳の於くらは、越前府中城の炊事場で下女働きを始める。一人夜中まで働いていた於くらのもとに、ある晩つまみ食いをして来た男・城主の堀尾吉晴に料理の才を見出される。

『炊飯は人に寄り添うものであれ』という吉晴の教えを胸に、人に寄り添う食事を目指す於くらの料理は、戦場の兵どもだけでなく、天下人の心までも動かしていく。

料理の才に恵まれた少女・於くらが、戦乱の世で出会いと別れを繰り返しながら成長していく時代グルメ絵巻。